

改ざん40力所超す 血液27.9度を36度 血圧33は37に

東京女子医大事件

東京女子医科大病院の心臓手術ミスで平柳明香さん(当時17)が死した事故で、朝日新聞は改ざん前と改ざん後の人工心肺記録の「CVP」を入手した。改ざん前後を比べると、体温や薬の投与量だけでなく、体に送り込む血液温度や血流量など40カ所以上にわたる書き換えがあった。人工心肺装置の操作ミスなどから脳障害が起きたことを隠そうとした意図が読みとれる。

別の記録作り直し

改ざんされた人工心肺記録											
記事	脱送	脱温	送温	咽温	直腸	AOP	CVP	心筋	Flow		
開始	(rpm, l/分)							LAP			
155	96	28.9	29.9	28.2	34.8	33	10		1.0		
160	94	32.7	33.5	35.1	33.9	27	10				
170	STOP										

改ざん後											
記事	脱送	脱温	送温	咽温	直腸	AOP	CVP	心筋	Flow		
開始	(rpm, l/分)							LAP			
155	96	36.4	36.0	36.8	36.5	37	10				
160	97	36.7	36.0	36.4	36.5	40	10				
170	STOP	36.7	36.0	36.0	36.5						

改ざん前と後の違い	
人工心肺開始からの経過時間(分)	脱温(血液の温度)
改ざん前	155 28.9
改ざん後	155 36.4

警視庁生体検査本部は改ざんは手術責任者の医師(瀬尾和宏容疑者)の証言(脳障害容疑で逮捕)が指示したとみており、同じ記録をすでに押収している。

改ざん前の人工心肺記録は、右側の各列に、体から抜いた血液の温度(脱温)や体に送った血液の温度(送温)、血圧などを統括する体裁になっている。明香さんは人工心肺装置の不具合で血液が送り込まれない状態が続き、重度の脳障害を負った。この治療法として選ばれたのが「脳低体温療法」だった。

脳に送る血液を低温に保つこの治療法が始まったのは、人工心肺開始か

ら約15分後。改ざんの前の記録では、155分の時点で人工心肺から体に送る血液の温度が27.9度と低かったが、改ざん後の記録では36.0度になっている。ほろこや直腸付近で計測した体温も「34.8度から平然に近い「36.5度」に書き換えられていた。

また、装置の不具合が生じたのは、人工心肺開始から約90分後。改ざん前の記録には、この直前まで送っていた血液量が「送」という欄に記載されていた。だが、不具合発覚後は、あわてて「送」という欄に「送」が記載がない。改ざん

後には、不具合発覚前からのものも含めて、すべて空欄だ。心臓外科の専門家は「正常に血液が循環していたかをチェックする重要な項目で、これを消去するのは疑問。記録の不自然さには、教授らが気づかなかったのか」と指摘する。

女子医大小児心臓手術事故
改竄
2002年7月3日 朝日新聞